

編集後記

◇畜産研究会員の皆さん、購読者の皆さん、暑中お見舞申し上げます。暦の上では既に立秋も過ぎたこととなりますが、まだまだ暑い日が当分は続きそうです。暑くてかこち、寒くてかこつのも人情であります、まだまだかこっている間は結構でありまして、暑さボケ、編集ボケする段階になって了うと一寸困りものです。編集ボケをすれば、先ず購読者の皆さん方に一番申訳ないことに相成って了う訳です。皆さん方の中には該誌の編集人は暑中ボケだけではない。春夏秋冬年中ボケだと言われるかも知れません。それで結構です。その通りですから。凡そセンスのない武骨者が編集を行っているのであるから、表紙写真の季節を間違えたり、……を間違えたり……等々などは平氣の平座です。時には発行日も失念したり致しますから誤植誤字などは朝飯前のことです。これらのことについては寄稿者の方も、購読者の方ももうあきらめておられると見えて異議の申立てもなく、そこで良い気なもので、遂には寄稿者の名前まで間違えて平氣の平座、いやもうあきれ果てたことです。この前も皆さんおなじみのオーストラリアへの旅の執筆者、花尾省治係長よりお目玉、省治の省は省いてもまだうなずけるが、尻治となっているのは何ごとだ。馬尻にするなどは言われなかったが、注意を受けて初めてさもあつたかと恐縮するような次第で、これでも注意を受けなければ、次月号もその次もそのまま掲載するだろうと汗顔の至りです。それにしても、オーストラリアへの旅は今月号で第13回目、よくぞ続くものと感謝感激、且つて農業改良課の改良速報に、故佐々木寿氏が、「畜産の歩み」を掲載されていたことを思い出し「よく佐々木さん続きますなー」と私達が感たんすれば、いや畜産の歩みは牛のよだれと共に延々と続かすんだと申されておったことをふと思い出します。

それにしても課長の巻頭言、毎月毎月いや、昭和26年初刊号より実に正確に提供して頂き、と申しまして、今の編集者は昔のことは分らないのですが、兎に角毎月卒先投稿を賜り厚く感謝致す次第です。全くかんと頭にげん骨をもらって、その都度あわてて発奮編集にとりかかるようなこともしばしばでありまして恐縮、

今月末には乳牛種牡牛購入のため渡米され、オレゴン、ニュージャージー、イリノイ、ウィスコンシン各州を旅されることになっておりますので、帰国後は又「アメリカへの旅」と題して続々寄稿あることを今から読者の皆さんと期待したい。

現場試験場よりは毎月寄稿賜り厚く感謝適切な試験成績及び実際的な事項を常に掲載出来ることは、畜産研究会誌の性格より一層に有難く、今後共に継続御寄稿賜りたい。

津山の試験場の太宰佛さん、今月号に寄稿下さった、「どきげつらい」、平素が平素だけに実は初め題目だけを見て驚きました。どきげつらいは「吐き気つらい」「毒気つらい」と早合点しまして、いよいよ佛氏も持病の胃潰瘍がこうじて来たものかなと、しばし三軒屋の種畜場当時長屋住いの隣り同士（通称奥の銀座）で夜な夜な痛飲しておった当時を思い出して、しばしうたた荒涼の気持ちになりかけたのでありますが、本文を読むに及び、安心した次第、「土帰月来」、いやさもあいなむ、御躰大切に。

9月号は中家畜の特集号に致します。御期待下さい。先ずは暑中御挨拶旁々余白を埋めさせていただきます。

編集者